陸奥湾に生きる漁業者のパートナーとしての挑戦
～ 人にやさしいホタテ養殖漁場の環境保全への活動　～

野辺地町漁業協同組合女性部
部　長　　野坂ナリ子

1．地域の概況

野辺地町は青森県北部下北半島の基部の陸奥湾岸沿いにあり、藩政時代から下北、南部、津軽への交通の要衝にあり周辺町村の商業拠点として栄えてきた地域である。

町の産業別就業割合は、第３次産業が６割を占め、第１次産業が１割弱と農漁業への依存が年々低下してきている。

2．漁業の概要

野辺地町漁協は組合員数が３６０戸で、その大多数が陸奥湾でホタテ貝養殖業を営んでおり、平成１３年度の漁種別取扱高の約７０％がホタテ貝である。

町では資源管理型の育てる漁業をめざし、町内の３カ所の漁港に漁業生産施設をつくり基盤整備事業を進めている。

3．女性部組織と運営

野辺地町漁協女性部は昭和５１年に部員１１６名で婦人部として発足し、平成９年に女性部に名称を変え、現在は、部員が５０名で、組織体制は部長、副部長２名、役員５名、監事２名で構成し、「仲間づくり」と「家族や地域に理解される女性部」をめざし活動を展開している。活動資金は、会費、助成金、事業収益金で運営している。

主な活動内容は資料１のとおりである。

4．活動課題選定の動機

女性部の高齢化と漁業者の減少等で会員が減り、仲間づくりとみんなが参画できる課題の設定が必要になった。消費者も安全で安心できる食材を求めるようになったことで、女性部も生産者として環境保全に取り組むべきと考え、平成１１年、役員も全員新しくなったのを機に、女性部の活性化にむけ、「環境保全」をテーマに活動をはじめることとし、毎年行われている海の清掃を「もう一歩進めた活動を」と取りあげた。

5．実践活動状況及び成果（効果）

1）みんなが海の汚れに気づくことから始める

陸奥湾沿岸には、県都青森市をはじめ１４市町村があるが、西風が強い季節となると、湾内の砂浜はうち寄せられたゴミで目を疑う。ビニールや紙おむつ、韓国文字で書かれたジュースの空き缶、農業用の廃資材等様々である。

湾内の漁協でも年間行事として海の清掃を行っているが、年々汚れがひどくなり、漁協の会合や漁師達の集まりの度に何とかしなければと話題に上がっていた。

食物を育てる漁場で養殖されたホタテを、消費者に自信をもって提供するために、漁場の環境保全を女性の立場からも行動し、変えていかなければと思った。

2）　廃プラ等廃棄漁具の回収活動と美化活動

ホタテ養殖のパールネット、丸篭は、毎年修理が必要となるので修理時の針金が廃棄

物となる。また、不用になったプラスチック容器なども、そのまま放置され浜の美観を悪くしているので平成１２年からこれら廃棄物の回収活動を行っている。（資料２）

最初の年、役場に女性部の活動を理解してもらい協力を取りつけ、回収料金をみかん箱１杯分で１００円と決めた。

ホタテ作業が一段落した７月に回収の期日と集積場所等を記載したチラシ（資料３）を配り申し込みをとったところ、最初の回収日は４トン車１０台にもなり、夫達の協力を得て町の産業廃棄物処理場へ運んだ。回を重ねたことで、一般組合員にも活動の趣旨が浸透し、今では、積極的に回収に協力してくれるようになっている。

また、浜は敷地が狭いため、花壇等も少なく殺風景なので、少しでも沿道の美化に役立てばと思い、収益金を活用してプランターと花の苗を買い、部員に配布し各自の作業小屋の前において管理するようにしている。忙しい働き手に代わって、近くの高齢者が、花に水をあげたり草を取ったり協力してくれ、浜美化への関心を示すようになってきた。

３）　手作り空き缶入れの利用推進

県の漁協女性協議会では、船上で飲んだジュース缶を海に捨てないようにと「空き缶ポイ捨をやめよう」と運動を進めている。女性部では、県の女性協が進める空き缶入れを参考に、ビニールのエプロンと傘の金具の再利用で使い勝手の良いものを作った。役員で利用してみたところ、夫達からも好評であったため、今年は、組合員の持船全船に備えつけてもらおうと、ホタテ作業の暇な冬を利用して多目的集会所「マリンキッチン」に集まって「空き缶入れづくり」の講習会を行っている。

講師には役員全員があたり、すべての船に常備できるようになった。また、漁協からも「海への空き缶ポイ捨て防止」を呼び掛けてもらい、特に女性が気配りし、袋の持参を徹底するようにしている。（資料４）

４）　救命胴衣の共同購入と緊急行動への準備

ホタテ養殖は、朝から晩まで夫婦が一体となって作業にあたることが多く、いつも危険と背中合わせの中で作業を進めているが、漁師仲間や女性部の集まりで、このような船上での状況を「救命胴衣さえ着ていたら」「あるいは無線操作ができていたら」「船上作業での機械操作の知識があったら」と話題になっていた。

そこで、役員会で話し合いを重ね、念願の救命胴衣を全女性部員が共同購入した。

このことがきっかけで、漁協でも全組合員の着用を決め、漁協等から助成を得て野辺地町漁協の海上作業者全員が黄色のお揃いの救命胴衣を共同購入することができた。

また、無線操作や機械操作等は夫任せにしないで私達も簡単な操作技術や知識を身につけておくことが必要と考え漁協に要望したところ、女性の船上での機械等の操作知識のレベルアップを図るため、「船上での緊急時の対応」について研修や講習会を開くことを約束してくれた。

５）海を守る研修会や交流会での活動ＰＲ

女性部の環境保全活動が見えるようになったことで、部員の関心も一段と高まり、県や町等で行われる環境問題の研修等にも女性部への呼び掛けが多くなり、漁業者以外の方との交流も増えた。このような交流で私達が進めている「わかしお石鹸、無リン石鹸」のことが話題の中心となった。漁業者以外は知られていないことが分かり、これを進め

るには職業や組織を越えた連携の必要性を確認した。さっそく、町に掛け合って役場ホールに展示したり、町の女性団体が主催している「資源を大切にするバザー」で一般消費者にＰＲした結果、町や漁協では行事の賞品等身近なところでの活用を進めるようになった。商工会にもＰＲして飲食店での利用を進めているが、漁業者以外の関心は今ひとつ伸びない状況にある。

６）陸奥湾保全再生にむけた各団体の連携活動の提言と活動参加

かつて映画のロケが行われるほど風光明媚なところであった陸奥湾の環境を、県民全体の宝として保全再生するため、漁業者以外にも色々な団体が活動を始めてきた。

私たち女性部だけの活動も限界があり、他町の女性部員との交流会でも消費者や環境団体との連携が必要だとの意見が多くなっていた。

私達は、環境保全活動を点の活動から面に広げるため、これらの団体と手を結び、１４年４月に「陸奥湾東岸美浜ＤＡＹ」を実施した。当日は漁業者の他に消費者や小中学生等、ボランティア１５００人が参加し、ゴミ拾いや清掃活動等に汗を流し、大きな環境イベントになった。

また、１１月には野辺地町で陸奥湾沿岸市町村連絡協議会主催の「陸奥湾保全再生フォーラム」が催され、（資料５）、そこでは沿岸の中高校生や環境グループの方たちと話し合いをした。女性部も漁村女性の立場で意見を述べ、漁業者と地域住民の連携を約束し合った。更に、このことを同じように環境保全に取り組んでいる「むつ地域漁協女性部」の研修会でもお話しすることができ、環境問題の話題を深めていくことを確認しあった。このように各団体との連携活動で、陸奥湾沿岸の環境保全活動に面的広がりがでてきたことを実感した。

６．波及効果

１）他地域の女性グループの環境活動の一助に

「海の人と里の人」との交流会に参加した隣町の若い女性達が、自分達が所属する環境グループで洗剤のことを親子で取りあげ、環境保全活動につなげている。

２）女性部活動の活性化と仲間づくり

高齢化や漁業の廃業等、社会の変化とともに部員が減少したが、浜にも若い女性が後継者として入ってきており、女性部活動に参加するようになったことで私達も若返り、活動が活性化してきた。

３）パートナーや周囲から認められた活動

町や漁協への提言や要望が実現し女性部での役割分担も進んできた。また、環境保全活動で夫達や地域住民の関心も高まり協力姿勢がみられた。更に関係団体からの連携要請も多くなり、漁業経営士として発言する場も多くなった。

７．今後の課題や計画と問題点

昔のようなきれいな陸奥湾を取り戻し、陸奥湾で安定したホタテ養殖をしていくため、陸奥湾に面する１４市町村の消費者、農業者、漁業者が環境保全に対するネットワークづくりと、女性漁業者としての役割を充分に高めるために、部員各々がパートナー意識をもち、生産現場での知識や技術のレベルアップを図る必要がある。そのためにも今以上に、職業や性別を超えた交流で全体のパワーアップに結びつけるようにいろんな場で提言していきたい。

野辺地漁協女性部活動年表

資料 1

活動内容	H 9	10	11	12	13	14
① 漁村の環境をきれいにする活動						
・合成洗剤追放運動	←					→
・廃プラ漁具の回収活動				←		→
・空き缶回収袋の常備運動				←		→
・プランターで浜美化運動				←		→
・海の清掃・事務所清掃	←					→
② 漁業者の作業安全と健康づくり活動						
・健康を守る食生活講習	←	→				
・高齢者介護まごころケア教室	←					→
・救命胴衣の共同購入・着用						← →
③ 魚食普及と付加価値づくり活動						
・商工会とホタテ加工品開発					← →	
・多目的集会所マリンキッチンの改築					← →	
・ホタテの佃煮加工販売	←					→
④ 地域活動とボランティア活動						
・防火クラブの活動・交通安全活動	←					
・一斉ゴミ拾い活動	←					→
⑤ 友好都市との交流活動(埼玉県菖蒲町)						
⑥ 野辺地地域女性団体と交流						
・くらしを考えるつどい・女性交流会	←			海と山のドッキング	海の人と里の人の交流	→
⑦ 生活設計と貯蓄推進運動	←					→
⑧ 部員の親睦・教養講座						
・幹部研修・親睦旅行	←					→
・生け花、編み物教室	←					→

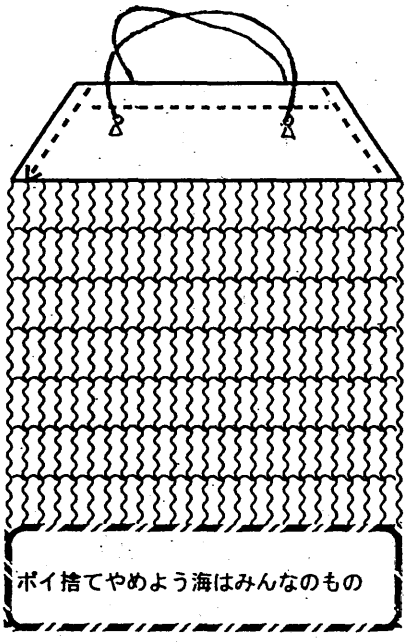
資料2

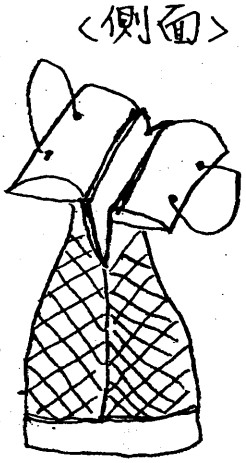
廃棄物回収の状況

年度	1回目	2回目	3	4	合　計
13	5月 1，410	7月 24，000	9月 1，770	11月 1，530	kg 28，710
14	1，750	2，750	2，810	1，660	8，970

資料4

作　品　名	手作り空き缶入れ
準備する材料	ホタテ網篭の網、ビニールエプロン、梱包用紐　傘の骨 いずれも使われなくなったものでよい。
作　り　方	①ホタテ編み篭の網の部分を使って２５×３５センチ（縦・横）で筒状に縫う。 ②筒状の上を決め、ビニールエプロン地を図のように切り、傘の金具を入れて筒状の網に縫いつける。 ③筒状の下の部分にもビニール地を使って袋に仕上げる。 ④ビニール地の方に呼びかけの標語書く。





資料3

回覧

平成13年9月13日

役員各位

野辺地町漁協女性部
部長 野坂ナリ子

丸篭.角ネット針金の回収及び漁港清掃について（お知らせ）

上記の廃棄物回収ならびにEU査察来組の為漁港荷揚げ場周辺の清掃を下記要綱にて行ないますので宜しくご協力お願い致します。

記

1．丸篭ほか回収　※雨天決行

（1）実施日　平成13年9月17日 午後1時より

（2）回収物　角ネット・丸篭の針金

※ネット付は回収しません。

（3）集積場所

馬門上 ⇒ 明昇丸 浜小屋前　上浜 ⇒ 喜久丸 浜小屋前

馬門中 ⇒ 海幸丸 浜小屋前　中・新道浜⇒ 太陽丸 浜小屋前

馬門下 ⇒ 悦見丸 浜小屋前　金沢浜 ⇒ 進勝丸 浜小屋前

2．漁港 荷揚げ場周辺の清掃　※雨天決行

（1）実施日　平成13年9月17日 午後3時より

※お忙しいとは存じますが、部員全員のご参加を宜しくお願い致します。

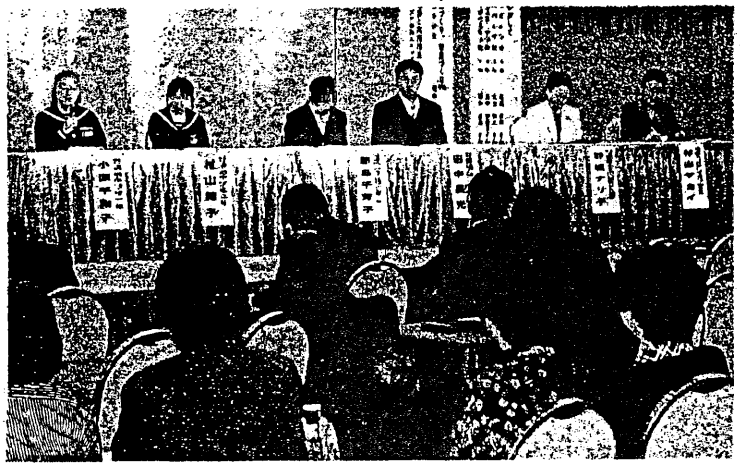
資料中5

美しい陸奥湾 みんなで守れ

□□野辺地でフォーラム□□

中高生らが意見発表

美しい海を次代に引き継ごうという「陸奥湾保全・再生フォーラム」が二十二日、沿岸市町村から約二百人が出席して野辺地町のまかど温泉富士屋ホテルで開かれた。中高校生を主体としたディスカッションや小学生が参加した体験発表が行われ、沿岸市町村と地域住民の連携を確認。「自分たちの海は自分たちで守る」とのフォーラム宣言を満場一致で採択した。



陸奥湾の環境保全をテーマにディスカッションする中高校生ら

フォーラムは青森市、蟹田町に続いて三回目。沿岸の十四自治体でつくる陸奥湾沿岸市町村連絡協議会が主催した。

今年四月、野辺地―横浜町の海岸線でごみ一掃を目指し、ボランティア千五百人が参加した「むつ湾東湾美浜推進DAY」について小中高校生が体験を発表。「ごみで砂浜が汚れ、驚きの気持ちが腹立たしさに変わった」（馬門小五年・大室祥之君）「一人ひとりの力は小さくても集まることで美しい陸奥湾を取り戻せる」（横浜第二中三年・畠中由莉亜さん）と述べた。

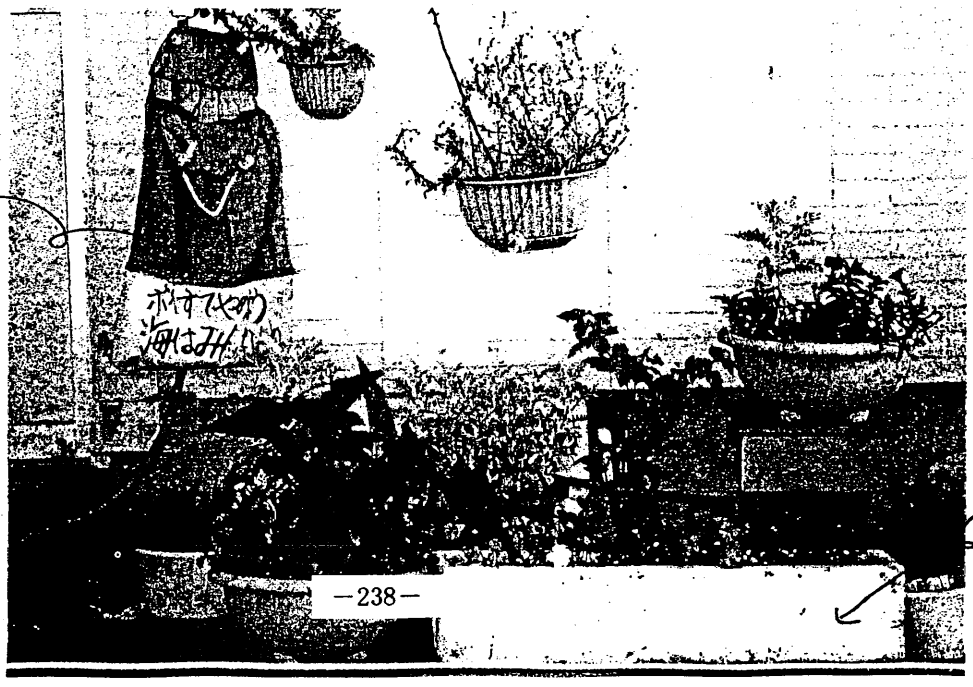
公開ディスカッションでは「美浜DAY」を呼び掛けた、はまなす海岸美化協議会長の柏谷弘陽さん（横浜町）をコーディネーターに、野辺地、横浜町の中高校生のほか、両町の女性が陸奥湾の保全方法を探った。

村山皓子さん（野辺地中二年）は「洗剤を海に流さないよう無駄遣いに気を付ける」、藤島千芳子さん（野辺地高横浜分校三年）は「病気を治す医者のように地球の何億人もが海のドクターになる」と提案。

田中長光君（野辺地高二年）は「生活排水さないなど自然への負を減らすことが大切」と強調した。

アドバイザーとして加した慶応義塾大学授の金谷年展さん（立保健大学助教授）は然の循環に敏感な子の意見を（陸奥湾の）に）生かしたい」とした。

海の汚染や合成洗剤について意見交換

マリンキッチン前で黄色のおそろい救命服衣を着用

夫達も手伝った回収作業